

氏名 井上 真一郎
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博 乙第 4541 号

学位授与の日付 2022年3月25日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科
(学位規則第4条第2項該当)

学位論文題目 Safety and effectiveness of perospirone in comparison to risperidone for treatment of delirium in patients with advanced cancer : A multicenter prospective observational study in real-world psycho-oncology settings
(進行がん患者のせん妄に対するリスペリドンと比較したペロスピロンの安全性と有効性：サイコオンコロジーの臨床現場における多施設共同前向き観察研究)

論文審査委員 教授 座間味義人 教授 小林勝弘 准教授 山下 徹

学位論文内容の要旨

進行がん患者のせん妄に対する薬物治療では、一般に抗精神病薬がよく用いられる。ペロスピロンは本邦で開発された抗精神病薬であり、せん妄の治療に使用されるようになったのは最近のことであるため、その有効性や有害事象に関する質の高い研究は国内外ともに存在しない。本研究は、進行がん患者のせん妄の治療におけるペロスピロンの安全性と有効性について、リスペリドンとの比較を行った多施設共同前向きである。結果として、ペロスピロン投与群では、睡眠覚醒リズム障害に有意な改善が認められた。また、ペロスピロンの1日投与量の中央値は4mg/日であり、有害事象としての傾眠のエピソードはリスペリドン投与群と比較して有意に少なかった。以上より、低用量のペロスピロンは、進行がん患者のせん妄の治療に有効であり、有害事象としての傾眠のエピソードが少ない可能性がある。

論文審査結果の要旨

進行がん患者のせん妄に対する薬物治療では、一般に抗精神病薬がよく用いられる。ペロスピロンは本邦で開発された抗精神病薬であり、せん妄の治療に使用されるようになったのは最近のことであるため、その有効性や有害事象に関する質の高い研究は国内外ともに存在しない。本研究では、進行がん患者のせん妄の治療におけるペロスピロンの安全性と有効性について、リスペリドンとの比較を多施設共同前向き研究により行った。DOAC群はVKA群と比較して死亡率の低下と新鮮凍結血漿の投与量が少なかったことが示された。結果として、ペロスピロン投与群では、睡眠覚醒リズム障害に有意な改善が認められた。また、ペロスピロンの1日投与量の中央値は4mg/日であり、有害事象としての傾眠のエピソードはリスペリドン投与群と比較して有意に少なかった。

委員からは、ペロスピロン投与群とリスペリドン投与群の直接的な比較や、ペロスピロン投与による転倒の副作用が多いことに指摘があった。本研究者は、今後の展望も含めて2群間を直接比較する研究デザインや、転倒の副作用の原因となる要因を作用機序も交えて回答した。

本研究は、進行がん患者のせん妄に対する薬物治療について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。